

< 会費納入制度 アンケート結果および委員会見解 >

2020.8

燕舞会会長 佐藤 弘美

燕舞会会員 各位

会費納入制度 アンケート結果および委員会見解

会員の皆様におかれましては、先月実施いたしました、「会費納入制度の導入」アンケートにつきましてご協力を頂きまして誠にありがとうございました。

以下に、アンケートの結果を踏まえた代表委員会の見解をご報告いたします。

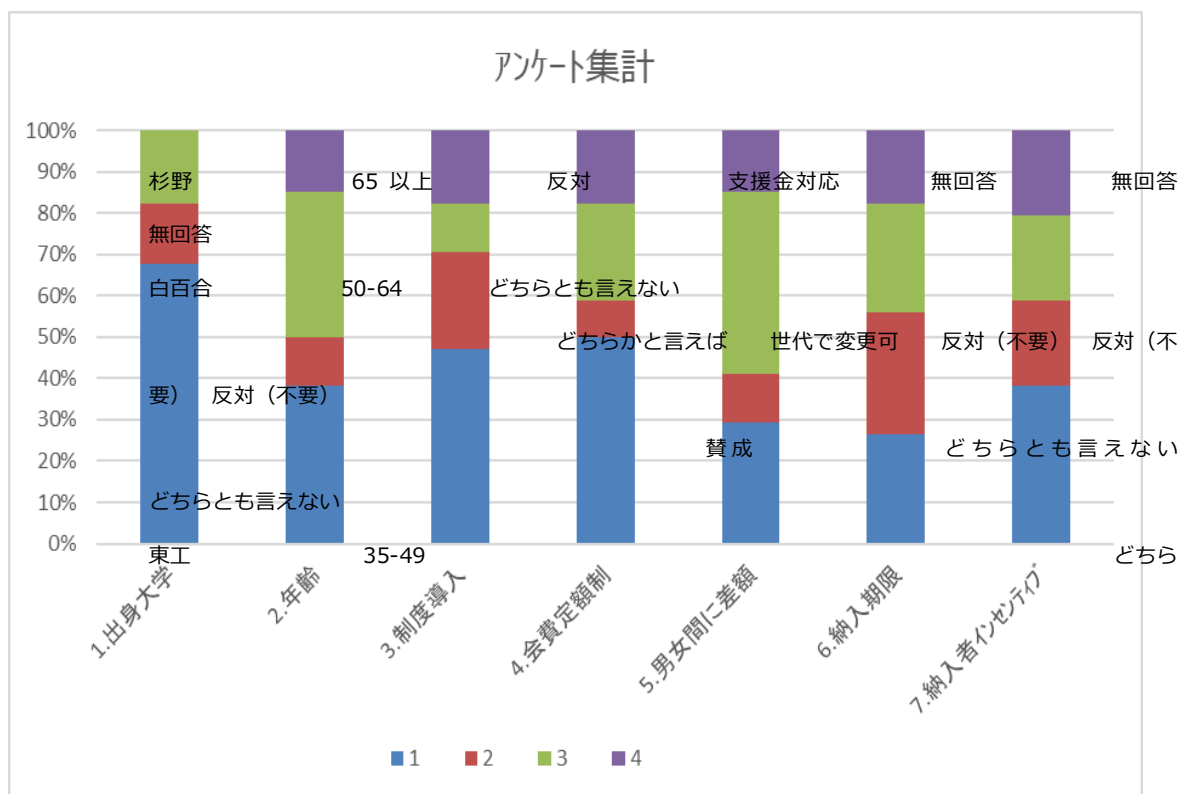
<委員会 見解>

今般の「会費納入制度導入」の提案は、下記の理由をもって第7期代表委員の任期中において、一旦 **「取り下げ」** る。

見解に至った理由；

- ① アンケート回答者の意見では、「制度導入」に賛成の意見が多数であったが、反対者も一定程度存在している。(下記、集計結果 ご参照)
- ② アンケート回答者数が、会員数の 1割にも満たなかったため、結果が会員の総意を示しているとは言えない。 <年度の「総会・懇親会出欠アンケート回答者数以下であった>

- ③ 未回答者は、 i ) メルマガ未読者、 ii ) 燕舞会活動にそもそも興味が薄い会員、 iii ) 潜在的な提案反対者など様々考えられる。
- ④ 逆に、反対意見を寄せられた方は、会の活動には意義を認めておられる方なので、その意見はある意味重いものでもある。
- ⑤ 一方、今年は「コロナ禍」で会の活動も大きく制約を受け、年明けの総会・懇親会の開催も不透明であり、「総会における提案」の形にも持って行けない。
- ⑥ また、近年は他大学OB会との交流等、会の活動の幅も広がってはいるが、今年は他大学でも同様に活動制約を受けており、燕舞会としてのお付合いに係わる経費の発生もおそらくないであろう。
- ⑦ すなわち、本年度においては、活動支援金は少額であったが、会の運営上すぐさま逼迫した状況には至らない。
- ⑧ 尚、自由意見欄で寄せられた意見に対しては賛成、反対にかかわらず丁寧に対応していきたい。



**<今後に向けて>**

今回の「会費納入制度導入」の取り下げにより、会の運営経費に係わる

「活動支援金」の位置づけは益々重いものになります。

「見解に至った経緯」の⑥項にも記載しましたが、近年は、他大学OB会との燕舞会としてのお付合いや、会員の弔事への対応等、会の活動の幅も広がっています。また、昨年度創設した「会員活動助成基金（総会・懇親会以外の会員同士の親睦への助成）」の充実も今後、「活動支援金」の枠内で図っていく事になります。

従って、当面はより多くの会員の皆様に「活動支援金」へのご協力を頂ける様、**活動支援金の充実**にフォーカスした検討をしてみたいと思います。また、「会費納入制度導入」については、その要否も含めて次期委員会構成メンバーに引き継ぎたいと思います。

以上